

ちょっと
インタビュー

山口貴司さん

本社営業部
棉花・クリエート
セクションリーダー



新卒で入社して17年目になります。若い社員も自由に開発に取り組みさせてもらえるのが当社の社風。私の母校でもある兵庫県立大学や取引先など外部とも連携し、難題を解決する仕事に大きなやりがいを感じています。約100社のモノづくり企業が新たな事業創出をめざして活動する「はりま産学交流会」にも出席して日々勉強に励むとともに、趣味のパーロン（中国伝来の船競漕）、野球などのスポーツで体調を整え、積極的に業務に臨んでいます。

たかし
澤田 亮さん

経営企画室 室長



東京の広告代理店に7年間勤め、社長の娘婿となったことが縁で一昨年に入社しました。畑違いの業種で、前職の「チームで動く」感覚から「自分で考えて発信する」変化にまだ戸惑いもありますが、「続けること」の大切さは変わりません。これまでの138年の歩みと、今後10年のスピードはまったく違うと思うので、遅れをとらないよう、毎日学びながら励みたいと思います。



▲兵庫県立大学と共同開発した「屋上緑化用軽量わた基盤材」。



▲「にしん地域振興財団」より表彰を受けた、異物混入を検出する自動検品装置。

合成繊維の機能性に着目し
不織布開発に傾注

澤田さんが(株)澤田棉行に入社したのは、78年のこと。入社直後、アメリカにある綿の学校で半年間学び、棉花の検品・鑑定を行う「コットンクラッサー」という、USDA（米国農務省）認定の資格を取得して帰国した。

「当時、会社の業績はよかったものの、国内の綿農家は激減し、海外から輸入する必要がありました。そこで、父と私で綿産国を渡り歩き、用途に適した原綿を探し出し、取り引きの基盤を築いたの

です」

原綿とともに布団綿の需要にも陰りが見え始め、同社は卸から自社製品開発に重点を置く経営体制にシフトしていく。なかでも澤田さんが注目したのが合成繊維である。

「すぐれた機能性をもつ合成繊維が次々と開発されており、原綿とかけ合わせればおもしろいモノが作れると考えました」

以降、不織布に特化した開発で業績向上に努め、96年には六代目の代表取締役社長に就任した。

現在、不織布製造部門は売り上げの35%を占めるまでになったが、50%にまで引き上げ、原料販

売に続く事業の柱に育てることが直近の目標と澤田さんは語っている。

「秘密保持契約があるので詳述はできませんが、ベッドのマットレス用の難燃性不織布や鉄道車両用の特殊素材は、国内外で高く評価されています。蓄積された技術を応用して、今後も工業・産業・生活資材などの分野における不織布の可能性を広く追求していきます」

原綿の卸売業からオリジナル製品メーカーへと業容を変え、老舗の看板を守り続ける(株)澤田棉行。今後の、さらなる飛躍が期待される。

株式会社澤田棉行 PROFILE

所在地:兵庫県姫路市西今宿3-9-10
TEL:079(292)0951
FAX:079(294)8171
http://sawadamenko.co.jp

